

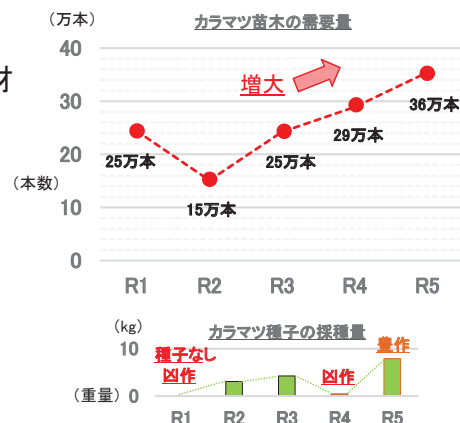
成長戦略課題 カラマツ種子の安定生産に向けた研究(R7～9)

森林総合研究所

背景・目的

カラマツ需要の増大

- キーテック山梨工場(R1稼働)のカラマツ材需要により伐採面積が増加
→ カラマツ苗木の需要が増大
- 種子は全て県が供給しているが、豊凶が顕著
→ 苗木生産団体から種子の安定供給について要望



研究目的

- 植物ホルモンの活用等による安定的な種子生産技術の開発
→ 凶作年におけるカラマツ種子の安定確保に向けて、着花・結実に繋がる植物ホルモンの働きを明らかにする。



けいよう
茎葉処理
(アブシシン酸噴霧)



着花・結実



アブシシン酸の効果の検証

これまでの研究成果

- 種子量を増加させる技術(環状剥皮)を開発
→ しかし種子の凶作年は効果が限定的



環状剥皮

研究内容

1年目	2年目	3年目
けいよう ■ 茎葉処理 はなめ 6～7月の花芽発生時に植物ホルモン「アブシシン酸溶液」を枝葉に濃度を変えて噴霧	■ 着花・結実状況の検証 ・4～5月 着花量 ・9月 結実量 } 現地調査	
	けいよう ■ 茎葉処理 ※1～2年目と同内容の調査により、 再現性を確認	■ 着花・結実状況の検証

※ 気温・雨量・日照等の環境要因による着花結実量の調査も並行して実施

採種園での生産拡大

期待される効果

豊凶に左右されない安定的な種子生産

主伐後の確実な再造林

地球温暖化防止

県産材供給力の強化

